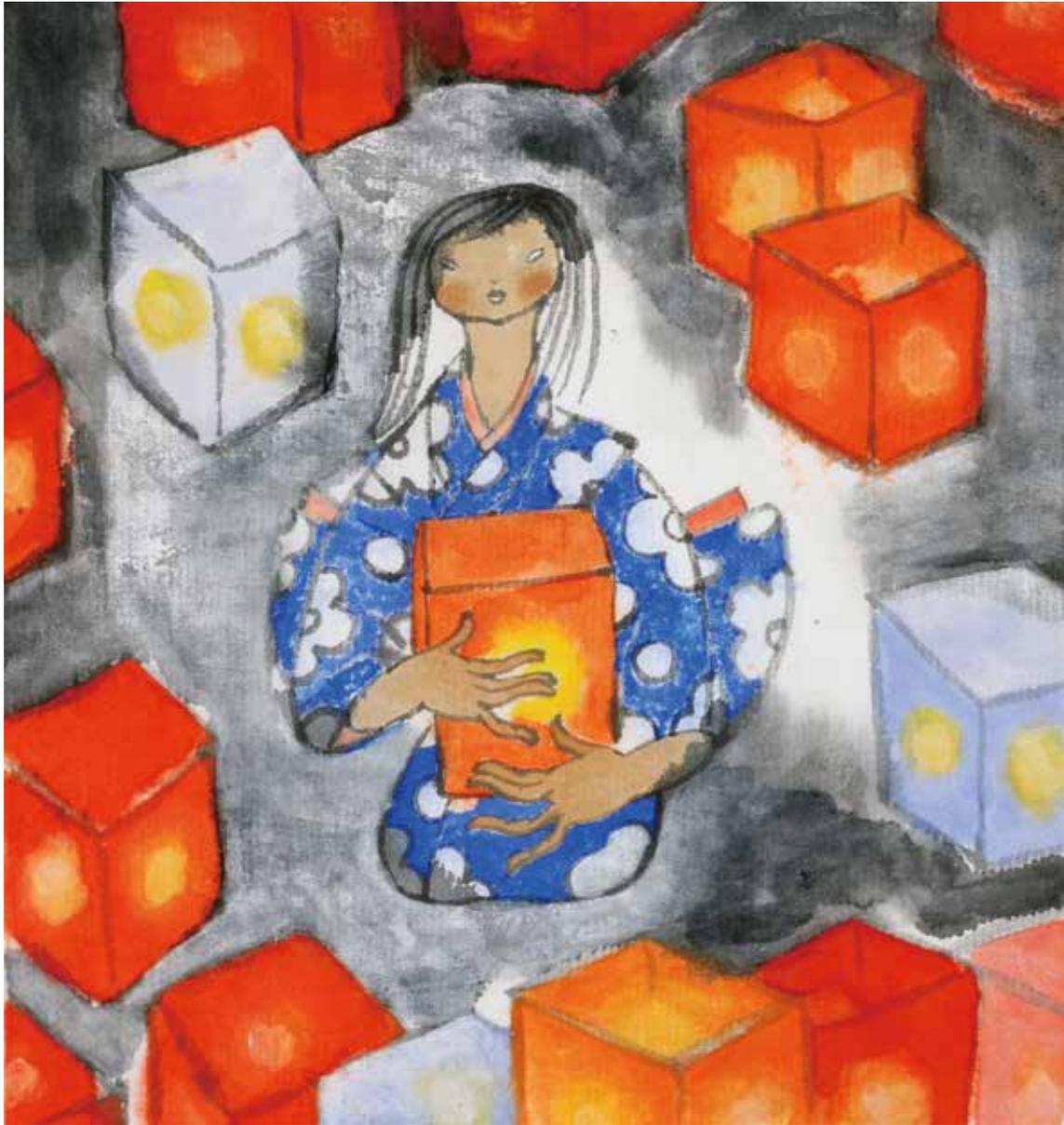


図書館の窓から



2014.7 No.145



絵本原画「ひろしまのピカ」 ©丸木俊

【特集記事】

- ◆私の一冊 編集者・ライター 亀山 康江 さん …… 3 p
- ◆中央図書館自主企画展の紹介
「原爆の凶 人間、その濁と清 -丸木位里・丸木俊の世界展-」… 4～5 p

館長通信

～役に立つ図書館を目指して！ビジネス支援を始めました～

近年、図書館には情報の拠点化や地域の課題解決の支援など様々な役割が期待されています。

地域の課題の一つにビジネス支援があります。公共図書館がこのサービスを導入する直接のきっかけになったのは、ニューヨーク公共図書館の科学・産業・ビジネス図書館を紹介した菅谷明子さんの記事（「進化するニューヨーク公共図書館」『中央公論』平成11年）といわれています。

当時、中央図書館でもビジネス支援の取り組みを検討しましたが、コーナーの設置に止まっ

ていました。平成25年度は、新規にビジネス支援を行うことによって、新しい利用者及びリピーターを獲得したいと、新潟県立図書館と共催で、セミナー・相談会や研修会（図書館職員対象）の開催、ビジネス関連図書コーナーの充実・パンフレットの設置、広報活動（HP、広報誌「長岡ビジネスアーカイブ」発行）に取り組みました。

図書館を利用してすぐに起業できるかという、なかなか難しいことですが、セミナーをきっかけに、一人が起業しました。嬉しいことです。また、昨年度開催したセミナーには、のべ72人

から参加いただきました。拡充したビジネス関連図書コーナーの書籍の貸出数は、前年度よりも大幅に増加しており、利用者から確かなニーズのあることもわかりました。

そこで今年度も継続して、ビジネス支援の取り組みを行い、長岡独自の歴史を活かしたり、関係機関と綿密に連携したりすることで、長岡らしいサービスを展開し「どうして図書館がやるの」から「さすが図書館は役に立つね」と、市民の皆さんの期待にこたえていきたいと考えています。（金垣 孝二）

文書資料室だより

長岡市史双書 No.53 『江戸時代の旅と旅日記(1) 伊勢・大坂・京都・江戸・鎌倉・日光・草津』 発刊

江戸時代の人々は、どのような旅をしていたのでしょうか。

長岡市史双書No.53『江戸時代の旅と旅日記(1) 伊勢・大坂・京都・江戸・鎌倉・日光・草津』では、寺社参詣の旅や名所旧跡をめぐる旅、学問の旅、湯治の旅、詩画を楽しむ旅など、長岡の人々のさまざまな旅を紹介しています。

その中の1点「^{かいたいにちろく}海岱日録」（嘉永元年）は、長岡藩北組割元格庄屋・清水雪海と、長岡藩士・小林誠斎（虎三郎の父）の81日間にわたる旅の記録です。北国街道・木曾街道・中山道・東海道・三国街道などを歩きながら、途中で大坂・京都・江戸に遊び、その記録を雪海の文章・

山水画と誠斎の詩（漢詩）とでまとめたものです。美しく彩色された46点の山水画と、道中の景色を巧みに描写した33点の詩で構成されており、読み応えのある内容になっています。

もう1点「東武・鎌倉・江の嶋・日光 日記」（安政6年）は、古志郡三之宮村庄屋・佐藤市郎右衛門の旅日記です。江戸では多くの寺社を見物し、歌舞伎芝居や大相撲興行を楽しみました。さらに、幕府直轄の学問所「湯島聖堂」で漢学の講義を受けています。当時、湯島聖堂では、希望者に広く聴講を許可していましたが、身分によって席が分けられていました。日記には、その席割の図面も記され

ています。

自家用車やバス・電車など便利な乗り物のない時代、人々は自分の足で歩き、時には馬や駕籠に乗り、ゆっくりと旅をしていました。旅日記を読みながら、皆さんも一緒に江戸時代の旅を楽しんでみませんか。時間に追われることのない、昔ながらの旅の醍醐味を、味わうことができます。（桜井奈穂子）



▲「海岱日録」より
「妙高山 戸隠山 黒姫山 雪海写生」

私の一冊 私の一冊

編集者・ライター

亀山 康江 さん



『人と人をつなぐ料理
食で地方はよみがえる』
奥田 政行／著
新潮社

「美味しいものには、人を元気にする力があります。(中略)人と人をつないでくれる。人の輪を広げていく力を持っているんです」

プロローグでこう語る著者は、山形県庄内地方の鶴岡市で「地場イタリアン」を掲げる店「アル・ケッチャーノ」のオーナーシェフ。今でこそ押しも押されぬ有名店ですが、2000年の開店からしばらくは模索します。転機は在来作物との出会いでした。何百年にもわたって庄内で慈しみ育てられてきた作物の力強い味わいに感動し、市場から消えつつあった在来野菜を「これは残さねば」と自店で積極的に使うようになりました。

独自の料理は評判になり、在来野菜をきっかけに人の輪は広がります。さまざまなメディアに取り上げられると、東京や関西からも大勢の人が詰め掛け店は連日超満員。在来作物をはじめ庄内の食材の知名度もグッと上がり引く手あまた…と、地方の若き料理人の奮闘10年の成功物語は爽快です。でもそれだけで終わりません。

本書の終盤には長岡が登場します。「在来作物が充実した土地」として。地元レストランの招きで長岡を訪れた奥田シェフは、とりわけ山古志の在来品種「かぐらなんばん」に興味を示します。「何か面白い食材を合わせて説得力ある料理が作れたら、世界に誇れる野菜になると思う」「間違いなく、長岡を、ひ

いては日本を代表する在来野菜とっていいでしょう」。何だか長岡人が照れくさくなるほど熱くほめちぎっています。

2001年の初夏、私は当時勤めていた新聞社で「長岡野菜」の連載企画の取材を進めていました。その数年前から、長岡でも昔から作られてきた伝統野菜などを長岡野菜として認定し、その復権・普及を目指す取り組みが始まっていたからです。かぐらなんばんは、最初に長岡野菜に認定された11品目のひとつでした。

2010年発刊のこの本にある奥田シェフのかぐらなんばん称賛は、これまで長岡野菜を盛り立て応援してきた人々へ、十数年越しで届いたエールになるのかもしれない。「奥田シェフがこんなに絶賛する野菜ってどんなもの？」と関心を持つ人が内外でさらに増えたらいいなと思います。

さて、“世界に誇れる”長岡のかぐらなんばんは、7月中旬から収穫の最盛期を迎えます。総菜や和洋菓子など加工品もバラエティー豊かです。かぐらなんばんが主原料の調味料「長岡ぐりーん」が長岡商工会議所青年部によって開発され、市内飲食店でこれを活用した長岡ぐりーんグルメを通年で楽しめます。ぜひ、お試しを。



亀山 康江 (かめやま・やすえ)

1968年長岡市生まれ。地域新聞記者などを経て2004年からフリーランスの編集・ライターとして活動。現在、新潟日報長岡販売店グループ発行「NICながおか通信そいがあて」、新潟日報社長岡支社発行「n-assh (エヌ アッシュ)」などに関わる。

平成26年度 中央図書館 自主企画展
 原爆の図 人間、その濁と清
 -丸木位里・丸木俊の世界展-
 平成26年7月12日(土)～8月10日(日)

休館日：7/14(月)・7/22(火)・7/28(月)・7/31(木)・8/4(月)
 会場：長岡市美術センター (中央図書館2階)
 開催時間：午前10時～午後6時 入場料：無料
 主催：長岡市・長岡市教育委員会
 協力：公益財団法人原爆の図丸木美術館・有限会社 流々
 企画協力：七彩社

人間の「濁」と「清」を描いた二人の画家 丸木位里・俊の世界



丸木俊・丸木位里夫妻

略歴

丸木位里 (1901-1995) 広島生まれ。松村景春(大坂)田中頼障(東京)らに学ぶ。1928年第13回広島県美術展に初入選。1935年第14回日本南画院展に入選。1935年広島で初個展。以降、青龍社展・美術文化協会展・前衛美術展・日本国際美術展・日本アンデパンダン展等の展覧会に出品。水墨画家として活躍した。

丸木俊 (1912-2000) 北海道生まれ。東京の女子美術専門学校(現女子美術大学)で洋画を学ぶ。卒業後、千葉県市川市の小学校代用教員となるも画業に専念するため辞め、外交官の家庭教師として1年間ソ連に暮らす。のち、南洋のヤップ島にも旅する。1939年銀座紀伊国屋画廊で初個展。同年第26回二科展に初入選。以降、二科展・美術文化協会展・女流画家協会展・日本アンデパンダン展等に出品。多くの絵本の画を手掛けたことでも知られる。

二人は、1941年に結婚。1945年原爆投下直後、位里の故郷広島へ救援に入る。1947年から「原爆の図」制作に取り組む。(1982年に全15部が完成)以来、「原爆の図」は、国内外の多くの会場で巡回展示される。1967年埼玉県東松山市に原爆の図丸木美術館開館。「南京大虐殺」「水俣の図」「アウシュビッツの図」などの大作も共同制作した。1995年ノーベル平和賞にノミネート。広島県民栄誉賞。広島市政功労賞。1996年朝日新聞社「朝日賞」受賞。

(参考：財団法人原爆の図丸木美術館ホームページ)



絵本原画「ひろしまのピカ」丸木俊 1980年

俊が手掛けた絵本『ひろしまのピカ』(小峰書店)は、15カ国語圏で翻訳出版されている。第3回絵本にっぴん大賞、全米図書館協会ミドルレッド・L・パチェルター賞、米国ニューイングランドエリア・ホーンブック・ノンフィクション賞、婦人国際協議会ジェーン・アダムズ賞、第30回赤い鳥文学賞特別賞を受賞。

水墨画家 丸木位里 (1901-1995) ・油彩画家 丸木俊 (1912-2000) 夫妻は、被爆直後の広島に入り、想像を絶する惨劇を目の当たりにしました。二人は、人間のおぞましい歴史を見てしまった責任から、後世にこの悲劇を伝えるべく絵筆をとりました。その代表作が「原爆の図」屏風15連作であり、パブロ・ピカソの「ゲルニカ」と並び、戦争の悲惨さと平和への希求をテーマとした作品として世界的に知られています。

本展では、夫妻の共作「原爆の図」(3点)を中心に、絵本原画・水墨画・油彩画・デッサンなど約80点で、位里・俊それぞれの優れた創作活動も紹介します。人間として、画家として、人間の持つ「濁」と「清」を見事に描ききった二人の作品世界を、ぜひご覧ください。

長岡市は、県内唯一の戦災都市であり、非核平和都市です。戦争の記憶が希薄になりつつある今、戦後70年となる来年に向けて、戦争の悲惨さ、愚かさ、平和の尊さについて、改めて見直す機会となれば幸いです。

- 【関連行事】
- ①記念講演会「いのちを描いた二人の画家 -丸木位里・俊の残したもの」
7/27(日) 午後2時～3時30分 申込：7/8(火)～ 定員：180人
 - ②ギャラリートーク(展示解説)
7/27(日) 午前11時～ 申込不要 直接会場にお越しください。
①②とも講師：岡村幸宣氏(原爆の図丸木美術館学芸員)



絵本原画「赤神と黒神」丸木位里 1969年

絵本『赤神と黒神』(ポプラ社)は、みちのくの神々を主人公とした雄大なものがたり。民話を元に松谷みよ子が文を、位里が絵を担当した。



絵本原画「ひろしまのピカ」丸木俊 1980年

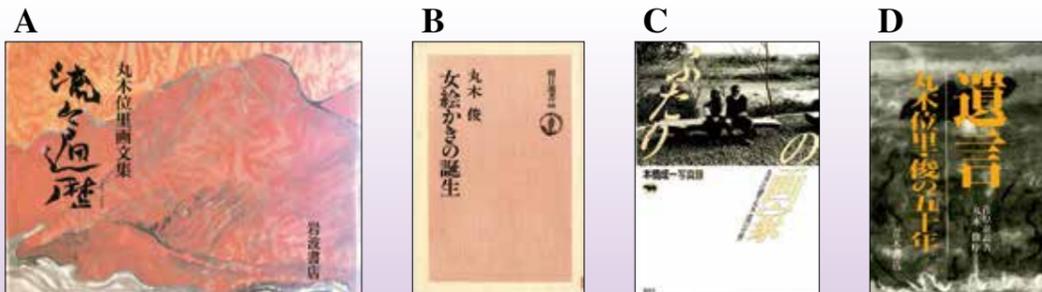


「原爆の図 第五部 少年少女」屏風(右隻) 丸木位里・丸木俊 1951年

展覧会を見る前に、見た後に
読んでみませんか?
関連本紹介

© 丸木位里 丸木俊

位里・俊の生涯や作品について



- A 『丸木位里画文集 流々遍歴』丸木位里/著 岩波書店
- B 『女絵かきの誕生』丸木俊/著 朝日選書 朝日新聞社
- C 『ふたりの画家 丸木位里・丸木俊 本橋成一写真録』本橋成一/著 晶文社
- D 『遺言 丸木位里・俊の五十年』菅原憲義/著 青木書店

原子爆弾の恐ろしさ



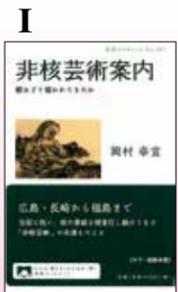
- E 『ヒロシマ・ノート』大江健三郎/著 岩波書店
※挿絵に『ピカドン』の絵が使用された。
- F 『ピカドン』丸木位里・丸木俊/作
ナンシーH.ツニソン・石川保夫/英訳 小峰書店

「原爆の図」とは?



- G 『新版 原爆の図』原爆の図丸木美術館
- H 『「原爆の図」描かれた〈記憶〉、語られた〈絵画〉』
小沢節子/著 岩波書店

核と芸術表現



- I 『非核芸術案内 核はどう描かれてきたか』
岡村幸宣/著 岩波書店

所蔵資料紹介 No.141 歌川広重 錦絵 佐渡金やま

歌川広重（1797～1858）は文化・文政期、人物画を中心に手がけていましたが、天保初年に江戸の名所を描いた風景画が世に出ると、その鮮やかな藍色が目を引き、人々の注目を集めます。さらに「東海道五十三次」で広重人気は不動のものとなったのです。

今回紹介する作品は、^{たて}豎長構図の^{ずえ}豎絵という新しい試みで挑んだ、嘉永6年（1853）発表の「六十余州名所図会」69図中の1つで、越後からはもう1図、親不知を選んでいます。

相川金銀山を描いた本作は、広重が実際に写生したものではなく、葛飾北斎の『北斎漫画』から「金山」を参考にしたといわれ、メインとなる坑道入口の構図や人物はよく似ています。ただ広重は画面手前にある小屋から視界を広げ、藍色の空のすぐ下に小屋と同じ大きさの山を描くなど、遠近法をつかい、緑深い空間を作りあげました。金銀の華やかな世界を支えたのは、厳しい作業を担った労働者たちですが、画面から喧騒は感じられず、むしろ静けささえ漂っています。

古くは平安後期の『今昔物語集』に「佐渡に金の花がさく」として登場し、以来、多くの書物や絵図に佐渡金銀山は記されてきました。初代に続き2代広重は「諸国名所百景」で、3代広重も「大日本物産図会」でそれぞれ金山を描いています。

現在、新潟県では佐渡金銀山の世界遺産登録に向けて、様々な活動が行われています。古代から人々の関心を集めてきた、金銀山の隆盛に思いを巡らせてみませんか。（小熊よしみ）



越後文学さんぽ ～新潟出身の作家をクローズアップ～

関川 夏央（せきかわ・なつお）（1949—）

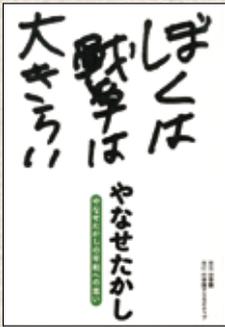
1949年（昭和24）、新潟県長岡市出身。上智大学外国語学部中退。神戸女学院大学特別客員教授。主な著書に『ソウルの練習問題』、『海峡を越えたホームラン』（第7回講談社ノンフィクション賞）、『坊ちゃん』の時代』（共著／第2回手塚治虫文化賞）、『昭和時代回想』、『昭和が明るかった頃』（第19回講談社エッセイ賞）、『「世界」とはいやなものである』、『現代短歌 そのこころみ』、『汽車旅放浪記』、『家族の昭和』などがある。2001年、「明治以降の日本人と、彼らが生きた時代を捉えた幅広い表現活動」により、第4回司馬遼太郎賞受賞。（参考：『寝台急行「昭和」行』日本放送出版協会、『作家・小説家人名事典』日外アソシエーツ）



『寝台急行「昭和」行』
関川 夏央／著
日本放送出版協会

著者の「鉄道の旅」をテーマとした作品は、これが2冊目になります。本人曰く、「隠れキリシタンのような鉄道好き」ということで、鉄道好きを50歳過ぎまで隠してきたとのこと。いわゆる「鉄ちゃん」と呼ばれることにはかなり抵抗があるようで、文中に度々「ローカル線のローカル列車に乗るのが好きだけ」という表現が出てきます。そんな著者ですから、タイトルにもあるような昭和を感じさせる各地のローカル線の旅を次々と紹介してくれます。大好きな「盲腸線」（工事が途中で中断されている枝線的な路線）の旅も当然含まれていますが、ようやく全線開通した段階でもう廃線候補の路線もあるという事実は、何と云えばいいのでしょうか。鉄道を題材とした文芸作品も、宮沢賢治、夏目漱石そしてオリエン特急行と幅広く紹介されています。巻頭の、「全山火事のような紅葉のなか、石打駅のホームに佇む坂口安吾」のくだりは、印象に残ります。（徳永 馨）

平和の大切さについて考える

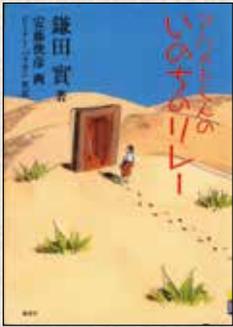


『ぼくは戦争は大きらい：やなせたかしの平和への思い』

やなせ たかし／著 小学館クリエイティブ

アンパンマンの作者・やなせたかしさんが、自らの軍隊時代の体験をまとめたものです。やなせさんの飄々とした語り口からは悲惨さをあまり感じさせませんが、平和を願う強い思いは言葉の端々から感じることができます。

(西 和美)



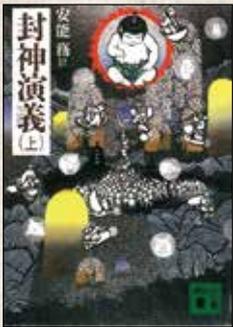
定価：1,500円 (税別)

『アハメドくんのいのちのリレー』 鎌田 實／著

安藤 俊彦／画 ピーター・バラカン／英訳 集英社

イスラエル兵に息子を殺されたにもかかわらず、敵国の病気の子どもたちに臓器を提供したイスマイルさん。この実話を、鎌田實さんがいのちのバトンをつなげていくために本にしました。子ども達が安心して遊べる世界を作りたい。イスマイルさんと鎌田さんの平和への思いが詰まった1冊です。

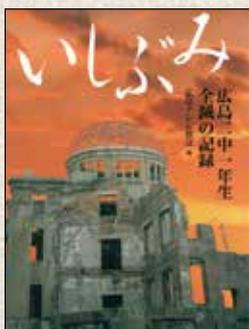
(長瀬 貴子)



『封神演義』上・中・下 安能 務／訳 講談社

中国の殷の頃のお話です。妖怪たちによって国が傾いた殷の平和を取り戻すため、敵と戦う道士・太公望と仲間たちが活躍します。ファンタジックな世界観の中で仙人や妖怪を巻き込みながら、傾国を促した妖狐や国の王という大きな存在や、仙境側の策略と戦い向き合う彼らの勇気の物語です。

(若月 綾)

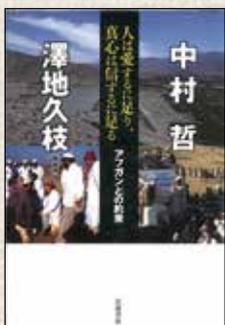


『いしぶみ：広島二中一年生全滅の記録』改訂新版

広島テレビ放送／編 ポプラ社

広島テレビ放送で製作されたドラマ「碑」を基に書かれた本です。広島に投下された原子爆弾によって亡くなった、広島二中の1年生一人ひとりの最期の様子が記されたもので、戦争の悲劇を二度と繰り返してはならないこと、平和であることがどれ程大切であるかを訴えかけています。

(大関 健人)



『人は愛するに足り、真心は信ずるに足る：アフガンとの約束』

中村 哲／著 澤地 久枝／聞き手 岩波書店

内戦と早魃^{かんぱつ}に苦しむアフガニスタンで、医療活動と並行し水路を造り続けた中村医師と、作家・澤地久枝さんの対談集です。軽妙に語られる中村医師の活動に透けて見える、「故郷で飢えずに家族と暮らすこと」を切望する人々の姿に、アフガンに一日も早く平和が訪れることを願わずにはいられません。

(宮谷 潔子)

イベントガイド（7月～9月） ※全て参加無料

【読者のつどい】 互尊文庫1階 児童室 19:00～20:30

テーマの本の感想を話し合い、人生観や文学論などを自由に語り合う会です。

7/25（金）『鍵のない夢を見る』 辻村 深月／著

8/22（金）『ポトスライムの舟』 津村記久子／著

9/26（金）『蛸ノ記』 葉室 麟／著

【映画会】 中央図書館2階 講堂

7/8（火）「タンゴ ガルデルの亡命」

（1985年 フランス・アルゼンチン）14:00～ 120分

7/23（水）「みなまた海のこえ」（2010年 日本）14:00～ 40分

8/15（金）平和を考える映画特集

①「美しい夏キリシマ」（2002年 日本）10:00～ 118分

②「ヒバクシャ 世界の終わりに」（2003年 日本）13:30～ 116分

③「劇団四季 ひかりごけ」（2009年 日本）15:45～ 73分

8/24（日）夏休みこども映画会

①「世界名作アニメ ピーターパン」(1953年 アメリカ)

10:00～ 77分

②「劇場版ムーミンパペット・アニメーション ムーミン谷の

夏まつり」（2008年 フィンランド）14:00～ 87分

9/12（金）「東南角部屋二階の女」（2008年 日本）14:00～ 104分

9/27（土）「ピナ・バウシュ夢の教室」（2010年 ドイツ）14:00～ 89分

図書館ニュース

◆子どもたちに絵本やわらべ歌の喜びを！
中央図書館では、子どもと関わるすべての方を対象に、絵本・わらべ歌・パネルシアターに親しむための講座を開催します。ぜひお気軽にご参加ください。

○絵本について

日 時：9月28日(日)

〈第一部〉

「子どもの心を育てる絵本の世界」

時 間：13：30～15：30

講 師：錦 恵美子 氏

（新潟県立大学 非常勤講師）

〈第二部〉

「ブックスタートボランティアについて」

時 間：15：40～16：00

講 師：中央図書館職員

○子どもと楽しむわらべ歌

日 時：①10月4日(土) ②10月18日(土)

時 間：10：00～12：00

講 師：伊藤 美智子 氏

（野いちご文庫スタッフ）

内 容：①お正月から春のわらべ歌

②夏から冬のわらべ歌

○子どもと楽しむパネルシアター

日 時：11月8日(土)

講 師：阿部 恵 氏

（道灌山学園保育福祉専門学校
保育部長）

詳しくは市政だより・HP等でお知らせ
します。

栃尾美術館展覧会案内

※有料

ART OF INDIA ミティラー美術館コレクション展

7/1（火）～8/31（日）

インドのビハール州ミティラー地方に伝わるミティラー
画などを紹介。インドの民族アートの魅力に迫ります。

※詳しくは栃尾美術館にお問い合わせください。（53-6300）



「チャクラ」

ゴードーワリー・ダッタ

名 称	電 話	休 館 日
中 央 図 書 館	32-0658	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日（土日祝と重なった場合は開館） 特別図書整理期間
互 尊 文 庫	35-7981	毎週木曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日 特別図書整理期間
西 地 域 図 書 館	27-4900	
南 地 域 図 書 館	30-3501	
北 地 域 図 書 館	22-7100	
中之島地域図書館	61-2165	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日 特別図書整理期間
寺泊地域図書館	75-5159	
寺泊地域図書館 大河津地区図書室	0256- 97-2497	
栃尾地域図書館	53-3005	
文 書 資 料 室	36-7832	互尊文庫と同じ
栃 尾 美 術 館	53-6300	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） ※展示替等による臨時休館あり

◆◆◆あとがき◆◆◆

今号の特集で紹介した丸木俊・丸木位里夫妻の
画を、1年間、館報の表紙に使用させていただく
ことになりました。7月から開催する企画展では、
代表作である「原爆の図」をはじめとした貴重な
作品を展示します。是非ご覧ください。（K）

平成26年7月1日発行

編集・発行 長岡市立中央図書館

住 所 新潟県長岡市学校町1-2-2

編 集 員 長瀬 貴子 山本 祐子 諏佐 志保 河田 利美
大関 健人 高橋 知香 若月 綾

メールアドレス lib@city.nagaoka.niigata.jp

HPアドレス http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp

印 刷 北越印刷株式会社